

主人の個展のマナー・ジメメントを生きがいに

佐倉(ゆうゆうの里)

江澤明様(82歳)・弘子様(74歳)

平成30年10月 夫婦入居

「結婚してからいろいろな経験をしてもらいます!」

奥様 主人とは19歳で出会って21歳で結婚しました。主人は官庁に勤務。私は民間の会社にいました。出会ったばかりの1〜2年は両親が反対でした。「まだ若くて世間を知らない、何も経験していないからまだ結婚は早い」という両親に、主人は「結婚してからいろいろな経験をしてもらいます。好きなことをしてもらいます!」ときっぱり。私は35歳の時に一念発起して保育の道を目指したのですが、その約束通り、保育士になりたいという私に「だったら、ピアノが弾けないとだめだろう。」とポンとピ



アノを買ってくれました。

主人の後輩や私の卒園生が集ってくる家

ご主人 私は野球や山登りをやっています。家の近くにグラウンドや川があるので、後輩がよくうちに遊びに来て、まるで合宿所でした。

奥様 あんまり人が来るので家を建て増してカラオケルームを作ったほど。ミラーボールもつけちゃってね。

ご主人 うちにパジャマや着替えを置いていた人もいましたよ。

奥様 だから主人の友人や後輩のことはなんでも知っています。私も保育園の子供たちがどうしたこうしたという話をするので、私の卒園生は主人にとっても教え子みたいなものです。その子たちが結婚

すると聞けば、主人は自作の能面を贈ってお祝いをしてくれました。主人が輝いていられる場になればいい

奥様 保母になったのも子供がいないう夫婦だったからです。だから、将来老人ホームに入居することはいつとも意識にありました。なぜか「ゆうゆうの里」のことは10年も前から知っていました。しかし主人は当初老人ホームに入るのには反対。偏見があったのかな。そこで一人で勉強しているうちに、母

の介護をするようになり、少しずつ主人も関心を持ち始めました。最重要視していたことは食事と介護。ここに工芸室があったことも。主人の決断につながると良いなと考えました。主人は野球でもなんでも一生懸命やっている姿がイキイキしています。だから能面に魅せられています。だから能面に魅せられているならずと続けて欲しいと。誰かに見てもらって頑張れる人だから、ここならそういう場がつくれると思ったのです。

能面に魅せられて、そしてつながって行く

ご主人 能面との出会いですか。家内の友人が牛久沼の近くに甚会所を作ったんです。ギャラリーもあって、そのオープンを手伝いにいった時、そこで見た「小面」に、

「すげえ、こんなのがあるんだ!」とシヨックでブルブルつと震えました。家内の友人の友人が作った能面でした。それがきっかけで、その人の教室で習い出したのが始まりです。

奥様 それから1000面できるときは、銀座のみずほのサロンで個展をしました。個展では見入ってくれる人、真に迫る言葉や感想をくれる人、喜んでくれる人がいて、それが喜びや励みになり、主人の自信にもなりました。

里に引越した2日後が、秋の祭典の出展締め切り日でした。スタッフの方に是非にと勧められて、入居者の一人でも何か感じてくれる人がいたらいいなと出展しました。2年目の出展の折には、

佐倉の美術館で出会った方も見に来られました。その方の美術仲間が、市立美術館で仲間展をする時、加わって欲しいとお誘いをいただきました。今その準備をしています。不思議にお仲間が繋がって広がって行くんです。



ご主人の作品の一つ(小面)



奥様がご主人の個展や、制作風景を編集し収録したDVDの数々



能面を打つご主人